

# 県南地区

# 参加・協力・参画の ステップアップ

## ～地域参画型授業の カリキュラムデザイン作成～



神宮寺小学校支援地域本部 大仙市立神宮寺小学校



神宮寺小学校では昨年度から本事業を展開しているが、「コミュニティスクール推進事業」(H19～H20)等の他の事業とからめながら、「地域に開かれた、地域と一体になった学校づくり」を目指している。

「学習支援活動」「情報支援活動」「環境整備・校舎営繕支援活動」「学校行事支援活動」「スクールガード活動」「部活動支援」等の多種多様な分野でアクションプランを実施してきた。他の学校支援地域本部のモデル的、先進的な活動を展開している。他の学校支援地域本部と比較して、スクールサポーター活動の特徴となるのは、学習支援活動の割合がとて高い点があげられる。

その要因の一つと考えられる、地域参画型の「カリキュラムデザイン」について紹介する。

### ◇「カリキュラムデザイン」について

#### 1 学校支援地域本部事業の成果と課題

学校支援地域本部事業を展開することにより、次のような成果が得られている。

- ・子どもたちの学習意欲の向上
- ・興味・関心の拡大化
- ・子どものセルフエステームの向上
- ・保護者等の「参画」意識の向上
- ・ネットワーク型教員としての意識向上

こうした成果がある本事業を維持・推進していくためには、「地域人材の発掘」と「地域人材を生かす授業づくり」の2点が課題。

#### 2. 「カリキュラムデザイン」とは？

地域人材を活用した授業は、イベント的と考えられがちであるが、日常的、通常的に展開することが大きな成果につながる。しかし、そのために教師が授業づくりに余計な負担になるのでは、本事業本来のねらいに合わないことになる。そこで、どの単元でどんな地域人材が活用できるか、年間計画の中でわかるような「カリキュラムデザイン」があれば、計画的に実施することが可能となる。

#### 3 「カリキュラムデザイン」の作成

かつて県南地区では、「学校教育社会教育合同研究」(S41～H14)通称「学社研」があったが、そのころから地域人材を学校に導入した事例が盛んに行われるようになった。そして、「人材バンク」としてまとめられていた。

当時と現在の指導要領のちがいが、新しく現在のものに合わせて作り替えることから始まった。さらに、新たに取り組んだ活用事例を加えていった。年間の授業計画の中で、本事業の活用できそうなところを網羅して「カリキュラムデザイン」を作成した。

#### 4 「カリキュラムデザイン」の活用

11月11日(水)に兵庫県議会文教常任委員会の15名が神宮寺小学校を視察のために訪問した。その時、全てのクラスの授業において、「地域の先生」「ゲストティーチャー」を活用した授業を実施。このように、1年間を通して、この「カリキュラムデザイン」にそって、地域の先生方に学習支援をお願いしている。

### ◇今後について

神宮寺小学校の先生方には、管理職からの説明により、それほど抵抗感もなく理解された。そのため大いに活用され、喜ばれている。

しかし、「カリキュラムデザイン」が完成しても、地域の人材が常に活用できるわけではない。常に新しい人材を加えること、そして、同じことができる人材を複数見つけておくことも重要となる。

また、1小学校区だけでは十分に人材を確保することはかなり厳しいという現状がある。他の学校支援地域本部とネットワークをつくり、連携していくことが必要。そして、複数の学校支援地域本部で人材の「共有」、「貸し借り」といったことが求められる。

更に、環境整備や安全指導に教師の手が掛からなくなった分、地域人材を生かした新たな授業づくりも今後教師に求められるところである。

●活動のようす●

◇11月11日の学習支援活動の様子



1年生：生活科  
「秋を楽しく」



2年生：体育  
「ニュースポーツを楽しもう」



3年松組：国語  
「すがたを変える大豆」



4年生：総合  
「伝えよう、  
神宮寺のイチオシ！」



5年松組：社会  
「私たちの国土と環境」

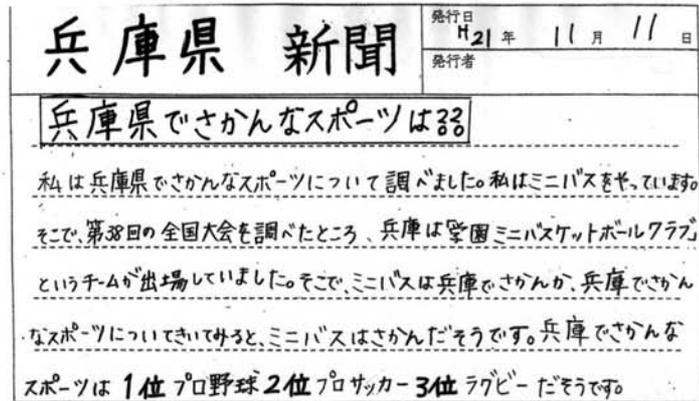


6年生：家庭  
「楽しい食事を工夫しよう」



3桜・5梅：生活単元  
「わくわく堂～パート2～」

※ 子どもが作成した兵庫県新聞（一部切り抜き）



平成21年度 カリキュラムデザイン（3年）

月	平成21年度 カリキュラムデザイン（3年）																少人数学習単元				TT指導単元				地域人材活用単元							
	4月				5月				6月				7月				8月9月				10月				11月				12月			
学校行事	運動会																ななべっこ会				ルフェスティバル				秋の学習発表会				冬			
社会	わたしのまち みんなのまち 24																人々のしごとわたしたちのくらし				人々のしごとわたしたちのくらし				人々のしごと・工場の人々のくらし				冬			
算数	九九を見なみそう（かけ算）				時間のしぐみを探そう（時刻と時間）				どちらが広いかな				新しい計算を考えよう（わり算）				水のかけ算はからう（水のかけ算のわり算とかけ算）				3桁の数の計算を考えよう（たし算とひき算の筆算）				夏							
理科	しぜんたんけんしよう				植物をそだてよう				チョウをそだてよう				植物のからだをしらべよう				こんちゅうをしらべよう				わたしのけいさつ				夏							
総合的な学習の時間	世界の国の人々 3時間																世界の国の人々 3時間				世界の国の人々 3時間				世界の国の人々 2時間				夏			
	大好き きらきら 神宮寺 279時間																大好き きらきら 神宮寺				大好き きらきら 神宮寺				大好き きらきら 大山市 13時間				夏			

【カリキュラムデザイン（3年生の一部抜粋）】

# 協和小学校 「子ども見守り隊」 ～子どもたちの安全は 地域みんなの力で～



協和小学校支援地域本部 大仙市立協和小学校



協和小学校は、平成20年4月に協和地域の6つの小学校が統合することで誕生した。

従来の6校には、それぞれの学校風土があり、それらを一つにまとめることは、教職員だけで対応するには膨大な時間と労力のかかる課題となることが予想された。

むしろ統合を機に、学校が地域の方々から多様な支援を得ながら、コミュニティーセンター的な機能を果たせるような存在になることが望ましいと判断し、この事業を実施することになった。

昨年度7月から本格的に動き出した協和小学校支援地域本部では、地域コーディネーターが学校と地域ボランティアの調整をすることにより、児童の学習支援、校舎の環境整備、登下校の安全確保など、多彩な活動が展開されている。

今年度からは、PTA会長が地域教育協議会の構成員に加わったことと、コーディネーターが2人体制になったことで、より充実した活動が展開されるようになった。

その中から、協和小学校「子ども見守り隊」の活動を紹介する。

## ◇活動の紹介

### 1. 趣旨・背景

統合により通学範囲が広くなり、全校児童の6割以上が既存の路線バスを利用しなくなかった。バスが小学校の敷地内に乗り入れるため、歩行する子どもの安全確保や、子どもの自宅からバス停付近までの見守りが必要になってきた。従来の6小学校ごとに組織されていた「子ども見守り隊」を再結成することが急務であった。

### 2. 「子ども見守り隊」の結成まで

本事業がスタートした時から、地域教育協議会の構成員に防犯協会協和支部長を加え、「子ども見守り隊」の再結成に向けて準備に取り掛かった。新たなボランティアの募集の結果、

子どもの祖父母世代を中心に、約80名のボランティアが声をあげてくださった。

各地区にリーダーを配置し、事前に足を運んで危険なところやバス停付近の状況をチェックした。

昨年度の10月から「子ども見守り隊」の活動が本格的にスタートした。

### 3. 活動の内容

#### ○徒歩の子どもの見守り

- ・登下校の引率
- ・歩道橋、横断歩道、交差点、学校への坂道での見守り

#### ○バス停付近の安全確保

- ・自宅からバス停までの見守り
- ・学校敷地内にバスが乗り入れた際の歩行者の見守り
- ・積雪期の除雪

## ◇この活動を行って

### ○成果

登下校の時間になると、地域の皆さんが自宅の近く等で児童に声をかけながら、安全に気を配ってくれている。中には、下校時にお孫さんを学校に迎えにきて、同じ方向に帰る1年生を連れて歩いている方もいる。また、「子ども見守り隊」をはじめとして、地域の方が子どもたちの通学路の除雪をしてくださっている。

旧小学校から新しい学校に変わっても、「おらだの学校」「地域の子どもは地域で」という気持ちが、地域に広まっていると同時に、学校と地域が共に元気を与えあっているように感じている。

協和小学校支援地域本部活動だより

# きしだて

平成 21 年 2 月 10 日 第 3 号  
 発行 協和小学校支援地域本部  
 秋田県大仙市協和境字岸館 37  
 大仙市立協和小学校内  
 TEL・FAX 018-892-3930  
 e-mail spa33fe9@future.ocn.ne.jp

## 協和小学校「子ども見守り隊」活動本格化



徒歩で大袋地区から登校班の児童と一緒に歩いて下さっているSさん。歩道橋、横断歩道、交差点で見守り活動をして下さっているWさん、Sさん。凍結路面にも気を配っていただいております。 <平成 21 年 2 月 5 日の修練坂から>

【「子ども見守り隊」の活動の様子は、活動だより「きしだて」で地域住民へ】

◇その他こんな活動も展開しました。(※ 学校支援地域本部実践発表会での資料の一部)

### 学校図書ボランティア

本の読み聞かせは、1学年を4つのグループに分け、2つの教室と図書室、今日のホールで実施されます。

図書室の整理作業の様子 図書室での表示

本の情報・書籍講習会 協和小学校

### 学校支援ボランティア活動 1

はじめての学習発表会、5年生の発表は「協和のおまつりと踊り」、ステージ上にお祭りを再現しました。

また、協和村岡村から講師4名が来てきた「協和音楽」、それをアレンジして作り出された「ロック協和」を大袋の地域の方々から見ていただきました。

### 学校支援ボランティア活動 2

おいしい雨降りで、屋内でのなべこしになりましたが、公民館の世代間交流事業「はたを囲む会」でお世話になっている老人クラブの皆さん、在校生の祖父母の皆さん総勢10名の方たちがボランティアとして参加されました。昔からの遊びを教えていただいた後、なべを囲み児童との交流を深めました。

1・2年生合同生活科「秋を数もつなべこし会」 20.10.24

### 学校支援ボランティア活動 3

書き初めに向けて習字の学習 仙人大学美術学部のみなさんからボランティアとしてお手伝いいただきました。14回にわたり、延べ90名の方にご支援いただきました。

### つながる力

県内・学校支援地域本部の実践

#### 協和小学校 教員と密に情報交換

旧小中学校は、それぞれの学校単位の活動が中心で、連携がとれていないのが現状。協和小学校は、旧小中学校の教員と密に情報交換を行い、連携を強化している。

#### ボランティア活動拡充

旧小中学校は、それぞれの学校単位の活動が中心で、連携がとれていないのが現状。協和小学校は、旧小中学校の教員と密に情報交換を行い、連携を強化している。

### 学校支援ボランティア活動 4

JA婦人部有志の方々から秋田の郷土料理「きりたんぼ」のつくり方を教わりました。秋田餅のくしこ飯をつき、炭火で焼き、比内鍋のだしをとった鍋を食べて交流を深めました。

鶴田テル小学校との交流 21.1.6

【秋田魁新報で紹介されました。(2009. 3. 18)】

# 大曲小学校 サタデースクール

～子どもたちの  
学力・社会力・体力を育てる～



大曲小学校支援地域本部 大仙市立大曲小学校



大仙市立大曲小学校では、本事業と「チェンジあきた・教育プロジェクト事業」を組み合わせ、「コラボ・スクール構想による人材育成」を掲げ、様々なアクションプランを実施している。

コラボ・スクールとは、学校と家庭、地域社会等との「連携＝コラボ」を強く意識し、学校教育目標「こころひらいて ゆめをそだてる」の実現を図る学校を意味するものである。

本稿では、アクションプランのひとつである「サタデースクール」を紹介する。

## ◇活動の紹介

### 1 サタデースクールの趣旨

近年、塾に通える子どもと通えない子どもとの間に学力格差が開いているのではないかという心配の声が聞かれるようになってきている。そこで、子どもたちの「学びの居場所」を確保し、学力のみならず、社会力や体力の育成を図るため、国の少子化対策事業とも関連させながら「サタデースクール」を実施する。

### 2 サタデースクールの基本コンセプト

- ① 補充的な学習や発展的な学習、いわゆる補習授業のような学力向上重視タイプ
  - ② 多様な体験活動を組み入れた社会性育成タイプ
  - ③ スポーツ活動タイプ
- 以上の3タイプを行う。

### 3 サタデースクールの具体

今年度は、まず学力向上型（タイプ①）の「基礎力アップ編」を実施した。基礎力アップ編では、主に補充的な学習に焦点をあて、ドリル的な学習を中心に行い、基礎・基本の定着を図った。また、子どもたちが大学生や地域の退職教員などのスクールサポーターから学習の仕方を学んで、家庭学習等の充実につなげていくようにした。

## 4 サタデースクールの特徴

- ① 土曜日を活用して補充的な学習を行う点  
→ 放課後や長期休業中を活用して補充的な学習を行っている例は多いが、土曜日を活用して補充的な学習を行っている例は、県内ではあまり例のない事例である。
- ② 会場を学校ではなく民間の交流施設「のびのびらんど」を活用している点  
→ 施設を訪問する地域住民等との触れ合いが生まれる。
- ③ 指導者を、学校の教員ではなく、退職教員、大学生等の地域住民が行う点  
→ 学力の向上を、学校・家庭・地域が一体となって取り組む。

## ◇活動をふりかえって

### ○子どもたちについて

宿題やドリルなど、各自が勉強したい学習用具を持ち込み、それぞれ自学自習を進めさせた。問題がわからない時には、そのつどサポーターの皆さんから優しくヒントを教えられている場面がよく見られた。子どもたちからは、「家で勉強するより、友だちと一緒にいい。」「宿題が早くできる。」などの声が聞かれた。

### ○ボランティアについて

「勉強を教える」というよりは、「まちの子どもたちの世話をする」といった感じで子どもたちに接していただいた。学習塾ではない、いわば「世の中塾」といった雰囲気を作っていた。

### ○今後について

サタデースクールは、基礎力アップ編に続いて、囲碁入門編、英語で遊ぼう編、世代間交流編など、続々と実施している。

また、秋田大学の学生がサタデースクールを常時サポートする体制も整備され、大曲小学校のみならず、大曲地域や大仙市全体に対象の幅を拡大していく考えである。

「学校支援地域本部事業」「チェンジあきた・教育プロジェクト事業」企画第一弾!!

# サタデースクール

## (基礎力アップコース)



「学校で習ったこと、繰り返して練習したい。」「算数の勉強をもう少しがんばりたい。」「友達と一緒に勉強したい。」「宿題を早くやってしまいたい!」.....

こんなお子さんたちのために、「大曲小学校支援地域本部」では、土曜日の午前中を利用して「サタデースクール」を開催します。今回は、基礎力アップコースです。子どもたちの基礎・基本の定着をサポートし、学力の底上げのお手伝いをします。

サタデースクールでは、子どもたちがその日に勉強したいもの(学校の宿題・一人勉強、予習・復習、ワークブック等)を自由に持ち込み、地域のボランティア指導者が子どもたちの自学自習をサポートを行います。土曜日の午前中を有効に使い、お子さんを学習させてみませんか。きっと効果が上がりますよ!!

※サタディ・スクールは、自学自習の支援教室で、学習塾とは異なります。

- |       |   |
|-------|---|
| 1 主催  | 大曲小学校支援地域本部   |
| 2 共催  | 大仙市教育委員会  |
| 3 期間  | 平成21年10月10日(土)から31日(土)までの毎土曜日 ※4回開催                   |
| 4 時間  | 10:00~11:30(90分)                                      |
| 5 会場  | のびのびらんど(大曲花火屋内:電話62-1091)                             |
| 6 対象  | 大曲小学校の児童 (※先着20人)                                     |
| 7 費用  | 無料  |
| 8 指導者 | 地域の退職教員、教員志望の大学生、高校生のお兄さん・お姉さん 等                      |
| 9 申込  | 下記の参加申込書を10月5日(月)まで学校へ提出してください。(FAX可) 定員になり次第締め切ります。  |
| 10 連絡 | ・全日の参加ではなく、部分参加もOKです。<br>・子どもたちの会場までの送迎は、各ご家庭にお任せします。 |



◇他にもこんなスクールサポート活動が行われました!



【大曲高校英語科による英語サポート】



【サタデースクール・囲碁編】



【のびのびらんど食育学習】



【伝統文化クラブお茶会】



【図書館ボランティア】



【曲小安全見守り隊】

# 学力向上を目指した チャレンジ学習ルーム

～夏休み学習会における  
地域ボランティアの活用～



刈和野小学校支援地域本部 大仙市立刈和野小学校



大仙市立刈和野小学校では、以前から地域ボランティアの方々が学校に協力し、様々な活動が展開されてきた。

今年度、学校支援地域本部事業のスタートにあたり、今までの活動の見直しを図り、ボランティアグループ「つなっ子サポーター」を結成。現在までに、環境整備、田植えや畑作り、花壇作業、郷土の歴史や詩歌、そして書写の学習など、様々なボランティア活動が展開されている。

その中から、夏休み中に実施された学習会「チャレンジ学習ルーム」を紹介する。

## ◇活動の紹介

### 1. 活動の背景・ねらい

大仙市の学校目標の一つに、「心力・体力・学力のステップアップ」がある。これを具現化するためには、学校・家庭・地域社会の連携・協力・融合を強化することが求められる。

刈和野地区では、太田地区の「キッズまなびい教室」等の先進的な活動を参考にしながら、長期休業中に「つなっ子サポーター」による子どもたちへの学習支援を展開している。

### 2. 活動の目標

- ①子どもたちの学力を確かなものにする
- ②地域人材の活用と育成を図る
- ③子どもたちに学ぶ楽しさを体得させる

### 3. 活動の内容

長期休業期間中に、子どもたちが宿題や苦手なところをじっくり勉強できるように公民館で学習会を開催。

子どもたちの学習支援には、子どもたちに勉強を教えることに慣れている元教師より、大学生や普段子どもたちと接する地域ボランティアを中心に協力をお願いした。

夏休みの前半に「チャレンジ学習ルーム」について子どもたちに知ってもらうために開催場所を学校とし、後半には異なった環境での学習を経験させるために西仙北公民館での開催とした。

## 4. 学習支援のルール

- ①子どもの自主性を尊重し、頼まれたり質問されたりしたことに対応する
- ②学習を支援した子どもの努力している姿勢に対して、賞讃の言葉をかけること

## ◇この活動を行って

### 1. 子どもについて

どの子どもも学習に一生懸命取り組み、休憩時間になっても学習している子どももいた。中には、学校の授業では長時間学習に集中できない子どもが、環境が変わった影響か、この学習会では、時間いっぱい集中して取り組んでいたことに学校の先生方も驚いていた。たくさんの人から褒められる嬉しさが意欲につながっていることが感じられた。

### 2. ボランティアについて

子どもに「教える」ことの他に、子どもと「交流する」ことも楽しさの一つになっている。また、子どもの頑張っている姿が、自分にもプラスになることがあると感想を述べていた。

### 3. 今後に向けて

冬休み、春休みにも「チャレンジ学習ルーム」が予定されているが、より多くのボランティアを確保するためにも、地域に位置する高校との連携が期待される。

また、平日に開催するため、参加する子どもが保護者が送迎できる場合に限定されている。誰でも自由に参加できるように、子どもを送迎してくれたり、安全に気を配ってくれたりするボランティアを募集することも検討していきたいと考えている。

## ちやれんじ●学習ルーム

### 《夏休み学習会のお知らせ》

日 時	： 平成21年8月20日、21日	9時～11時
会 場	： 大仙市立西仙北中央公民館	(75-1115)
申込み先	： 学級担任の先生	
問い合わせ先	： 刈和野小学校	(75-1014)
申込締め切り	： 7月21日(火)	

◇他にもこんな活動をしています！

#### 刈和野小学校では、次の学校支援ボランティアを求めています

【学習支援】	①英語	②裁縫・料理	③スキー学習	④水泳学習	⑤郷土の歴史
	⑥詩歌	⑦自然観察	⑧読み聞かせ	⑨楽器演奏	⑩書道
【環境整備】	⑪畑・花壇づくり	⑫図書整理			
【生産活動】	⑬米づくり	⑭野菜づくり			
【安心・安全】	⑮登下校の見守り	⑯校外学習時の見守り	⑰PTA開催時の幼児の世話		

〈申し込み・問い合わせ先〉 刈和野小学校 教頭

〒019-2112 大仙市刈和野字上ノ台 322 電話 0187-75-1014 FAX 0187-75-2770

※ 申込書は、最寄りの刈和野小学校児童宅へご持参いただいても結構です。



【つなっこグループと一緒に花壇作業】



【大網保存会と一緒に綱合わせ体験】



【地域のおばあさん達とおやき作り】

# 「ガ・ボラ」による 学校環境整備活動

～学校支援地域本部事業による  
新しい学校づくりの第一歩～



中仙小学校支援地域本部 大仙市立中仙小学校



大仙市立中仙小学校では、「子どもは地域の宝である」という考えのもと、可能な限り地域の目と心、技や知恵の協力をもらいながら、子どもたちを育てていく学校になることを目指している。そして、今年度から本事業をスタートさせ、子どもたちに豊かな学力と健やかな心力、たくましい体力を育むために、中仙小学校支援地域本部「ガ・ボラ」を設置した。

「学習活動支援」・「教育環境支援」・「子ども体験活動支援」・「学校安全支援」の4つのサークルにおいて支援活動を展開している。

その中から、夏休み中に教育環境支援サークルで取り組んだ「遊具、階段手すりの塗装作業」の活動について紹介する。

## ◇活動の紹介

### 1. 活動のねらい

普段子どもたちが利用している校舎の壁や遊具の塗装が一番のねらいであるが、せっかくなので地域ボランティアの力も活用したいと考えた。

そこで、技能組合から塗装のプロを講師として招き、塗装の仕方などの講習会と兼ねることにより、学習とボランティア活動を一緒に展開できるように計画した。

### 2. 活動までの流れ

- ①学校からの要望
- ②技能協会との協議
- ③地域ボランティアの募集
- ④作業の下準備
- ⑤活動の当日（講習会&塗装作業）

### 3. 活動の様子

塗装組合の方から塗装の仕方について一通り講習を受けた後、グループごとに各部署について塗装作業をはじめた。ジャングルジムの塗装を行ったグループでは、できるだけカラフルに、誰にもまねできない色づかいにしようというルールを決めていた。隣同士の色は、同じにしない、暗い色のとなりには暗い色を塗らない、など。その後頂上から塗り始めたが、やり易いところ

から難しいところにさしかかって、大変だと気づいた頃にはもう体中がペンキだらけになっていた。それでもひとときカラフルなジャングルジムに、プロ顔負けの仕上がりに、みんな満足の笑みを浮かべていた。

## ◇この活動を行って

### 1. ボランティアから

『今年一番楽しかった体験をさせていただきました。来年も計画がありましたら、また是非やらせていただきたいと思います。』

### 2. コーディネーターから

『学校の担当の先生からの要望にあわせて、協力者の皆さんの人選や派遣をお願いする調整役として、「調整役に限定する」「学校の要望をよく理解する」この2点を重点に置いてコーディネーターを努めています。ボランティアとして参加してくれる方々の「子どもたちを楽しませたい」という思いから創意工夫によって内容の濃いものになってくれたことに感謝したいと思います。』

### 3. 成果

他の活動も含めて、子どもたち、学校にとっては、地域の皆さんから元気を一杯もらいながら学習できるようになった。

また、地域のボランティアにとっては、「地域の学校」「地域で子どもたちのために」という思いがより強くなったことを感じ取ることができた。

### 4. 今後に向けて

現在、「学校からの要望に応える」事が中心となっているが、地域からの「こんな事ができる、子どもにやらせてみたいな」や「時間があるので、学校でどんなボランティアをほしがっているの?」といった積極的な「思い」が地域の声として出てくることになれば、地域と学校がより一体となった「ガ・ボラ」の展開となる気がする。

# 中仙小学校支援地域本部 ガ・ボラ

1号

平成21年6月12日  
発行 中仙小学校支援地域本部  
〒014-0207  
秋田県大仙市長野字六日町215  
大仙市立中仙小学校内  
TEL 0187-56-2318  
FAX 0187-56-3288

## 新しい学校づくりが始まっています

「ガ・ボラ」2号で  
ボランティア募集の  
お知らせ

PTA会員を含む  
地域の方から  
多数の申し込み

### 学校環境整備に参加しませんか

**ガ・ボラ** 募集中 期日：8月2日（日）  
場所：中仙小学校  
時間：午前8時～12時

内容：遊具の塗装、校舎の壁塗装 準備：軍手、汚れてもよい服装  
-日程-

8:00～受付（体育館） 8:30～9:30 塗装講習会  
9:30～11:30 塗装作業 11:30～後片付け  
11:50～閉講の会



### 親子での参加大歓迎です!

☆当日は、技能組合から塗装のプロがきてくれ塗装の仕方などの講習会も兼ねています

詳細については、中仙小学校へお問い合わせください。

#### 下準備



#### とってもカラフル



#### 塗装作業



# 「太田南小ダッシュ村」 体験活動

～生活の知恵と技を伝えて～



太田南小学校支援地域本部 大仙市立太田南小学校



大仙市立太田南小学校では、「むりをせずできることを積み上げながら、今年度の実績をつくり、来年度につなげましょう。」と考えて本事業をスタート。

そこで、今までのPTAや外部人材による学校支援を整理し、より効果的で充実した支援体制を地域まで広げようと考えている。

今年度は、「太田南小ダッシュ村」活動を中心に、様々な取り組みを展開した。

## ◇活動の紹介

### 1. 活動の背景・ねらい

太田南小学校では、学習はもとより「体験的な活動」にも力を入れている。子どもたちに「社会で生きていくたくましさ」、「心のたくましさ」、「体のたくましさ」を身につけさせたいと考えている。そこで、米や野菜などの農作物を作ることを子どもたちに体験させるために、「太田南小ダッシュ村」体験活動の充実を目指すことにした。

地域の方々から生活に生きる知恵や技を伝えてもらい、体験を通して自然の豊かさや怖さを実感することは、人や環境、ものを大切にする心とたくましさを育てることにもつながる。この活動には、地域ボランティアの協力が必要となる。幸いに今年度は学校支援地域本部事業を展開している折から本事業を活用し、2年目を迎えた「太田南小ダッシュ村」構想の実現を図ることにした。

### 2. 活動の内容

#### ①田植え・稲刈り

#### ②曲がりネギの植え替え・収穫

古くから太田地区（横沢）で栽培され、白い部分が大きく曲がっているところから「横沢の曲がりネギ」として特産品になっている。種蒔きから収穫まで2年もかかり、その間特有の管理をしなければならず、とても手間がかかる。しかし、地元には、この手間のかかるネギの栽培と採種が綿々と受け継がれている。秋に全校の「なべっこ」で材料として使った。

#### ③大根植え・収穫・柿漬けつくり

隣の大曲農業高校太田分校の畑を借りて大根を植えた。地域ボランティアから教えていただきながら、収穫した大根と学校の柿で、「柿漬け」にした。

#### ④食べ物となかよしに（保健集会）

地域ボランティアの協力を得て、郷土料理の「お焼き」や「梅寒天」「いぶりがっこ」「ポカポカ汁」「蕪のふろふき」など試食しながら、食材の種類や栄養や効能について知り所国についての理解を深めた。12月4日にはみんなで作った「柿漬け」もおいしく漬かる頃となるだろう。

## ◇この活動を行って

### 1. 子どもからの声

『先日は、曲がりネギの植え方を教えてくださってありがとうございました。おかげで、曲がりネギを植えるときの大切なことがいっぱい分かりました。苗は2本にして植えることや、ネギは10cmくらいの深さに植えることなどを教えていただきました。』

### 2. ボランティアからの声

『子どもたちの学ぶことへの手助けになったことを嬉しく思います。このごろ、子どもたちの生活のための技術が、身につけていないと感じています。生活が便利になり、生きていくための技術が以前ほど必要なくなりました。しかし、子どもたちが、豊かな生活をするためには、基本的なことは身につけなければなりません。このような生活技術も、子どもたちに伝えられることができたかと思っています。』

### 3. 今後に向けて

少しずつであるが、ボランティアの輪が広がってきている。焦らずに気長に支援の財産を蓄積し、引き出しの種類を多くしながらこの活動を継続させたい。また、学校教育だけにとどまらず、地域の活性化につなげることも可能である。

●活動のようす●



【田植え】



【曲がりネギ植：全校なべっこの具に】



【大根植え】



【大根の収穫】



【大根洗い】



【柿漬けつくり】



【お焼きつくり】



【梅寒天の試食】

# 南檜岡小学校 「コメコメ活動」支援

～南檜岡小学校地域支援本部  
「南小にこここ応援隊」の実践～



南檜岡小学校支援地域本部 大仙市立南檜岡小学校



## ◇活動の紹介

大仙市立南檜岡小学校では、「かかわり」を教育目標の一つにしている、児童数50人の小規模校で、学校全体が家庭的で温かい雰囲気を持っている。子どもたちは多くを語らなくても互いに分かり合える関係になっている。

以前から地域ボランティアの方々が学校に入り込み、様々な事業が展開されてきた。今年度から本事業を導入し、今までの事業のスリム化を図り、日常的な活動にするために、学校を応援して下さる皆様の名前を「南小にこここ応援隊」にした。活動支援、図書環境、ふれあい、環境整備、学校行事の支援、安全確保の6つの分野で支援が展開されている。

その中から、学校行事の一つになっている「コメコメ活動」への支援について紹介する。

## ◇活動の紹介

### 1. 活動のねらい

「コメコメ活動」は、総合的な学習と生活科の単元として位置づけ、ふるさと教育の視点から、ふるさと産業の米づくりを学び、ものを育てる楽しさや汗を流して働く喜びを感じ取らせることをねらいとして実施しているものである。

### 2. 活動の内容

#### ①野菜づくり（種まき・苗植え）

グループごとに、ライスパーティーの汁物に必要な野菜の種や苗を植えた。水やりや草むしりをして野菜を育てた。

#### ②田植え

どろんこになりながら、手で植えた。

#### ③稲刈り

収穫に感謝し、かまで稲を刈り、コンバインに運んだ。

#### ④ライスパーティー

コメコメ先生を招待し、みんなで収穫の喜びを味わった。感謝の気持ちでおにぎり汁物をつくり、おいしくいただくことができた。

## ◇この活動を行って

### 1. 子どもたちの感想

- いねをもってならんでいるとき、どこかのおじいさんが落ちそうになった稲を、下から落ちないようにしてくれました。
- コメコメ先生と一緒に育てたつやつやピカピカのおいしいお米をみんなで食べました。田植えや稲刈り、すべてコメコメ先生が教えてくれたおかげです。本当に感謝しています。これからも自分の家の手伝いとして、田植えや稲刈りなど、自分でやってみたいです。
- コメコメ先生がなえを育ててくれたり、水の管理を上手にやってくれたので、とてもおいしいお米になったのかなあと思いました。
- おにぎりをにぎっているとき、おばあさんににぎるのがじょうずだねと言われてとてもうれしかったです。
- 私がおにぎりを食べているとき、となりのおばあさんが「何年生？」と聞いたり、いろいろ話してきてくれて楽しかったです。

### 2. 成果・今後に向けて

この活動は長いスパンで、小規模校の特性を生かし縦割り活動で行っているが、グループでの学年に応じたそれぞれの役割の中で、自分を生かし協力する態度が養われていると感じることができた。また、コメコメ先生として支援していただく地域の方々とかかわりを通して、自然や米づくりについての知識を学び、人と進んでコミュニケーションしようとする力を育むことができた。子どもたちは卒業までに6回、それぞれの学年のねらいに応じてこの体験学習を積み重ねることになる。この体験の積み重ねがふるさとへの思いをつのらせ、子どもたちの将来の糧となることを期待したい。

●活動のようす●



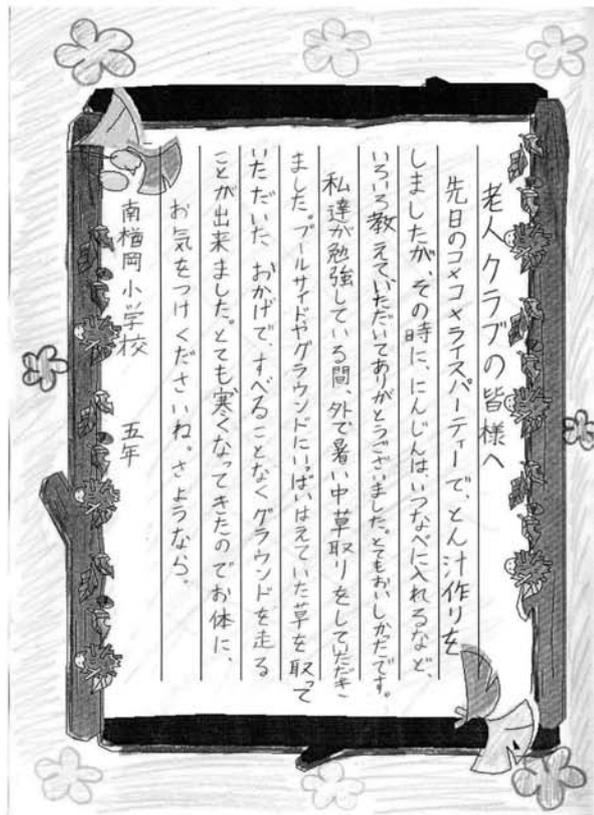
【おにぎりづくり】



【豚汁づくり】



【コメコメライスパーティー】



【子どもからの手紙】

# 高梨小学校が文字通り 「小鳥遊」になるように ～広報チラシの工夫による 効果的な情報提供～

高梨小学校支援地域本部だより

たかなし  
小鳥遊

高梨小学校支援地域本部 大仙市立高梨小学校



大仙市立高梨小学校では、地域の特徴として、歴史的・文化的な資産が多く、今までもそうした人材をボランティアとして活用してきている。さらに、子どもたちの学習、校舎・校地内や花壇の整備、校外での見守りなどの活動へと地域ボランティアの拡充を図りながら事業を展開している。

ボランティアの募集や様々な活動を地域住民に知らせる手段である高梨小学校支援地域本部だより「小鳥遊」によって紹介している。

## ◇「小鳥遊」について

### 1. 名前の由来

「小鳥遊」と書いて、「たかなし」と読む苗字があることを知り、「小鳥が何の心配もなく遊べ

るところ・・・小鳥たちにとって、天敵となるタカなどがいないところ（タカナシ）」とは、何

とすてきな名前だろうと思った。

### 2. お知らせした内容

#### ①高梨小学校支援地域本部について

「かゆいところに手が届く学校の応援団」を募って、地域ぐるみで子どもを育む高梨小学校支援地域本部事業を行っている。この事業は、高梨小学校の児童のために活動をして下さる「高梨小学校の応援団」を募るところから始まる。

#### ②ボランティアの募集

高梨小学校では、こんな事、あんな事をもっと安全・安心にやりたい、あるいはこんな事をしたけれども人手が足りない、等のことがある。地域や各家庭の方々の力をお借りして、子どもたちの力を伸ばしたいと考えている。

#### ③実施した活動の紹介

夏休み直前に「高梨小学校の応援団」を募集したところ、早速申し出があった。おかげで、ほぼ計画通りの活動ができ、感謝している。

やっていただいたのは、図書環境の整備（パソコンによる新刊本の受入作業など）、2年生

の生活科フィールドワークの引率補助の2つ。

9月30日（水）に行われた、2年生の“秋を探しに出かけよう”は、学校（バス）→大曲駅（切符を買い電車に乗る）→横手駅（バス）→秋田ふるさと村（体験活動、昼食、グループ別村内自由行動）→学校（バス）という内容。3人の方に引率補助をしていただき、楽しく無事に学校に帰ることができた。

#### ④ボランティアの声

『子どもたちの元気な姿に圧倒されました。一人いなくなればグループ内で一生懸命探している姿、立派だった電車内のマナー、普段買わない切符の買い方の勉強の様子など、普段は見ることのできない子どもたちを見ることができました。

再びこのような支援ができれば良いと思います。そして子どもたちの成長を楽しみにしながら、このような支援を通して自分も何か学びたいと思います。何かあったら、またお知らせください。』

#### ◇活動を行って

##### 1. 成果（本事業に対する先生方の声）

○調べ学習で関係図書が必要なき、支援があつて大変助かった。図書を活用した調べ学習は、今後も増えていくため、これからも大いに支援していただきたいと思っている。

○月2回の読み聞かせを、子どもたちは大変楽しみにしている。読み聞かせを通じて、読書への関心の高まりや読む本を選択する幅の広がりが見られた。紹介していただいた本を図書館に借りに行く子どもも見られるようになった。

##### 2. 今後に向けて

本事業のキーポイントは、いかにしてボランティアを確保するか、という点である。そのためには、地域の方々に様々な方が学校の支援をしていることを広く情報提供することが重要となる。自然に目に入る魅力のあるチラシにする工夫が今後も求められる。

●活動のようす●



【安全サポート】



【図書環境の整備】



【学習支援】

## 学校では、こんなボランティアを求めています！

番号	学年・担当	教科・領域名	単元名等	支援を必要とする内容	時期・期日
1	2年	生活科	秋をさがしにでかけよう！	・大曲駅から横手駅までの児童引率の補助	9月下旬
2	3年以上	国語科	書 写	・毛筆の補助指導(特に入門期の3年生へ)	随時
3	5年	家庭科	布で作ってみよう (ミシンを使って)	・ミシンの安全な使い方の指導 ・作品作りのアドバイス、支援等	10月中旬
4	5年	家庭科	作っておいしく食べよう	・ごはんとみそ汁作りの調理実習の支援	11月中旬
5	6年	家庭科	生活を楽しくする物を作ろう	・ミシンを使った作品(エプロン)作成の支援	10月初旬
6	図書担当		新刊本の受け入れ作業	・パソコンで、新刊本のデータ(題名等)入力	7~8月
7	音楽担当		高梨っ子祭の全校合唱	・ピアノ伴奏	9月上旬

【「小鳥遊」No.1 ボランティアを募集した活動の内容】

# みんなで踊った 「生保内節」

～運動会で「生保内節」の生演奏  
みんなで大きな輪で踊りました～



生保内小学校支援地域本部 仙北市立生保内小学校



仙北市立生保内小学校では、昨年度の後半から、授業でのゲストティーチャーや花壇の整備、読み聞かせ等において地域ボランティアを活用しながら本事業を展開してきた。最初は地域住民から「学校は敷居が高くて」「子どもたちに教えられるほどでは」というような声も聞かれたが、少しずつ本事業のことが理解され、「学校のために、子どものために」とボランティア登録してくれるようになった。

今年度の新たな試みとして、運動会で「生保内節」を踊る際、生演奏で実施した活動について紹介する。

## ◇活動の紹介

### 1. きっかけ及び背景

運動会では以前から地元の民謡である「生保内節」を子どもたちが踊っていたが、演奏は録音したものであった。せっかく地域に誇れる民謡があるのに、子どもたちに肌で感じてもらえないのは残念であると感じていた。

また、地域の方々も、子どもたちに地元の民謡を直に伝えたいという希望を持っており、学校と地域の思いが一致したことで実現した。

### 2. ねらい

#### ①子どもたちが地域の文化に触れる

地域の行事やお祭りが縮小の傾向にあり、子どもたちは地元の民謡を生演奏で聞ける機会が無くなってきている。

#### ②子どもたちが地域への思いと深める

子どもたちが高校・大学と進学し市外や県外に出ていったとしても、地域に対する思いをいつまでも持ち続けてほしいと願っている。

#### ③地域が学校に対する理解を深める

地域の方々から自らの活動をきっかけに学校を訪問し、地域と学校のかかわり方について考える機会をとらえている。

#### ④学校が地域に対する理解を深める

地元出身の先生方が少なくなったことから、

教師が地域の現状、地域の住民のことを知らない傾向である。地域が学校の活動について協力的であることを実感してもらいたいと考えた。

## ◇この活動を行って

### 1. 学校について

本事業を活用して学校全体で取り組んだ活動としては2回目になる。先生方からは、地域の方々から本当に学校に対して協力的であることを再確認できた。そして、本事業のよさや地域ボランティアの活用の手だてを理解することにつながった。

### 2. 地域ボランティアについて

地域ボランティアの方々からは、実際に多くの子どもたちの前で演奏したことにより、とても喜んでいただいていた。そして、「来年もやりたい。」「運動会だけではなく、発表会やクラブ活動でも子どもたちに民謡を教えたい。」といった声が聞こえてきた。

また、今回の活動のねらいが達成されたと同時に、多くの地域の方々の目に触れることができた。地域が学校へ、子どもたちの教育に関わる様々な活動へ、支援や協力できることが分かり、ボランティアの申し出が一気に増加した。

### 3. 今後に向けて

学校側では、地域の特性や人材を再認識し、それを学校の場で生かしていくこともこれからの課題であると考えられる。しかし、くれぐれもそのために教師の負担が増加することがないように考慮していくことも不可欠である。

また、環境整備や授業支援に対するボランティアの登録が増えてきたので、学校の要望とどのようにマッチングを図っていくか、地域の方々の活動の場として学校をどのように活用していくか、地域教育協議会の中でもアイデアを出し合って進めていくことが求められる。

運動会での生保内節



学校花壇



# 学校支援活動は 町づくりの一手段

～住民活動センター  
「みさぽーと」の取り組み～



美郷町住民活動センター みさぽーと



美郷町では、昨年度美郷町立仙南東小学校において本事業をモデル校として展開してきた。そして、今年度からは町内の全小・中学校（3中学校、7小学校）に範囲を広げて本事業を展開することになり、3つの中学校区に学校支援地域本部を設置して展開した。

住民が主役となる協働参画の町づくりを推進する美郷町住民活動センター「みさぽーと」の活動分野の一つに組み込み、3本部が連携して取り組むことができるスタイルを進めている。他の市町村にはない、特徴的で独自の美郷スタイルについて紹介する。

## ◇「みさぽーと」について

1. 「みさぽーと」とは？
  - ①みさと（美郷）＋サポート（支援）＋ポート（拠点）この3つの意味を持っている。
  - ②美郷町に暮らしている方の様々な町民活動やボランティア活動を紹介し、その活動を応援するための住民活動センターである。
  - ③「困っている人を助けたい」「こんなことならできる」という人を「したい人」（＝「みさぽーと」）と、「誰かに手伝ってもらいたい」という「してもらいたい人」を橋渡ししていくところである。
2. 機能について
  - ①コーディネート業務を行う。
  - ②活動の情報を発信する。
  - ③活動のサポート情報を紹介する。
  - ④活動中の事故を補償する。
  - ⑤活動の場を提供する。
3. 実施した活動について  
現在（12月末）まで、町内の幼・小・中学校、高校からは42件（うち小・中学校は33件）の依頼があり、延べ194人の「みさぽーと」が学校支援ボランティアとして活動してきた。  
活動の内容は、学習支援として授業の補助、花壇や図書室等の環境整備、体験活動支援など、様々な分野におよんでいる。中でも、家庭科や

書写の授業における技術指導、花壇の花植え作業や田植え・稲刈りの活動支援に対する依頼が多かった。

## ◇「みさぽーと」の活動を行って

1. 「みさぽーと」について  
学校との関わりがほとんど無くなった方からは、「久しぶりに学校に入ることができ、子どもたちと触れあうことで元気をもらうことができた」と喜びの声を聞くことができた。また、「こんなことしかできないけど大丈夫？」「こんなことでしたらいつでも声をかけてください。」「次は友だちもさそって行きます。」と、今後「みさぽーと」の活動に期待できる感想もあった。
2. 学校について  
最初はなかなか「みさぽーと」のことが理解されず、「みさぽーと」への要望が少なかった。しかし、コーディネーターが地道に呼びかけるなど、はたらきかけたことにより、「こんなこともお願いしてもいいんですね。」と理解されるようになった。それに伴い、徐々に活用する機会が増えてきた。
3. 今後に向けて  
「みさぽーと」の最大の特徴は、ボランティア団体、企業の割合が非常に高いということである。日常的な活動はもとより、学校行事や環境整備等にも幅広い支援活動が可能と思われる。  
また、今年度本事業を展開したことにより、1年間の学校で、いつごろ、どんな内容の要望があるか、おおよそ目安を立てて展開できるようになってきた。学校へのはたらきかけに加え、「みさぽーと」募集に対してもタイムリーに動くことが可能になり、さらなる活用が期待できる。さらに、美郷町全体に広く呼びかけていることで、地域や学校の格差なく、手厚い支援活動ができると考えている。

●活動のようす●

◇「みさぼーとプレス」(町の広報に毎月掲載)での活動紹介

**みさぼーとプレス** 美郷町  
住民活動センター  
「みさぼーと」  
からのお知らせ

**<仙南東小学校「稲刈り」に「みさぼーたー」が参加しました！>**

5月25日に田植えを行ってから約4カ月、10月1日に仙南東小学校5年生児童15名が、7名の「みさぼーたー」にご協力をいただき、「稲刈り」を行いました。

この日は、日差しが強く、絶好の稲刈り日和でした。「みさぼーたー」から昔の作業方法を説明していただいたり、カマの持ち方、刈り方などの指導を受けました。

なかなか難しかったのが稲を束ねること。この時ばかりは、稲を束ねる先生役としてモテモテだった「みさぼーたー」の皆さん。

児童達はコンバインに乗っての作業も経験し、お互いにとっても良い交流になったようです。

◇「みさぼーたー」募集のチラシ

美郷町では、児童の学習や、登下校時の見守りなど校外での活動のお手伝いをさせていただきます

**「学校の応援団」を募集しています。**

資格は特に必要ありません。  
ぜひ皆様のご協力をお願いします！

ご協力いただける方は――  
裏面の登録申込書にご記入のうえ、役場総合会館総合サービス課または下記お問い合わせ先(FAXでも可)まで、書類提出してください。

美郷町学校支援地域本部

「こんなことならできてる」  
活動にご協力ください！

ボクにも！  
教えて！

お問い合わせ先  
美郷町学校支援地域本部(教育委員会社会教育課)  
電話 0187-84-4915 FAX0187-84-2313  
美郷町住民活動センター「みさぼーと」(役場六郷庁舎1階町民ホール)  
電話 0187-84-1111 FAX0187-84-1117

～みさぼーたー募集！！～

「みさぼーと」では、学校の「読経(手縫い、ミシン)」、「調理実習」、「書道」、「体育」、「工作」の授業などで、先生の「補助役」としてご協力してくださる方を募集しています。

詳細は、「みさぼーと」までお問い合わせください。

【「みさぼーと」内】



● 県南地区

# 書道の先生は 地域の先生

～授業の補助に  
「みさぽーたー」を活用～



仙南地区学校支援地域本部 美郷町立仙南東小学校



仙南地区学校支援地域本部は、中学校1校、小学校3校の計4校の学校が位置しています。

昨年度、美郷町立仙南東小学校では、町内でいち早く本事業の展開に手を上げて、地域のボランティアを活用した取り組みを行ってきました。スキー教室や雪まつりの準備、賞状の名入れ、登下校の見守り活動などを行ってきたことから、町内の他の小・中学校よりも「みさぽーと」の活用機会が多くなっています。

その中から、書写の授業の補助としてボランティアを活用した活動について紹介する。

## ◇活動について

### 1. 活動の内容

7月15・22日 3・5年生「書道」

筆づかいが十分でない子どもたちへの指導を学級担任一人で指導するのは大変なことです。そこで、仙南地区で書道を学んでいる生涯学習グループに協力していただき、個に応じた的確な指導が可能になりました。



### 2. 活動の様子

最初の内は、子どもたちも「みさぽーたー」も緊張のため、どのように接していいのか分からず戸惑っていた様子であった。しかし、徐々に声を掛け合うようになった。

## ◇この活動を行って

### 1. 「みさぽーたー」の感想

○久しぶりに小学校に来ることが出来て良かったです。また小学生とのふれあいが楽しかったです。

○子どもたちは見られて緊張していたようですが、頑張って書いていました。次の機会も来てみたいと思います。

○来る前までは恥ずかしくてイヤな気分でしたが、来てみて子どもたちの明るさと元気に圧倒され楽しく終えることができ、帰りには何か良いことをしたような気分になりました。

○学校に来たのは数年ぶりなので、こちらが緊張して汗をかきました。

○授業後に花壇でとれたカボチャの話が出来て嬉しかったです。

### 2. 学校から

○子どもたちへの目も行き届き、技術的なアドバイスを声かけをしていただき、ありがたかったです。子どもたちが地域の方たちと交流の機会を持つことができたという点でも、有意義であったと思います。

○よい緊張感のなかで、安心して作品に取り組み、上達がみられました。是非、また来ていただきたいと思いました。

### 3. 今後に向けて

グループ数に対する「みさぽーたー」の人数が少なかったように感じた。安全面等の支援の内容により、適切なボランティアの人材確保が必要になってくる。そのためには、学校側との事前の打ち合わせが最も重要であり、事業を推進する上でも重視する必要がある。



# お世話になった学校へ 地域からの恩返し

## ～「みさぼーたー」による 学校図書館整備活動～



六郷地区学校支援地域本部

美郷町立六郷東根小学校



美郷町立六郷東根小学校は、来年度から六郷小学校と統合が予定されている。現在、児童数が50人を切る小規模校であるが、地域全体がアットホームな雰囲気を持ち、学校行事には地域住民と一緒に参加して盛り上げながら実施している。

今までお世話になった学校への恩返しの意を込めて、図書室を整理した活動について紹介する。

### ◇活動について

#### 1. 活動の内容

小学校の図書室や各学年学級文庫の図書の整理を行った。ラベルへの図書番号等を記入し、貼り付ける作業であった。

#### 2. 活動の様子

11月4・5日の2日間のみ作業であったが、参加したボランティア同士和気藹々と活動した。

1日しか参加できない「みさぼーたー」もいたが、すぐに作業に慣れ、楽しく活動していた。



### ◇この活動を行って

#### 1. 「みさぼーたー」の感想

○こういう仕事があったのも知らずに過ごしてきました。ちょっとしたお手伝いしかできませんでしたが、いい経験になりました。小さな学校なのに、子どもたちのためにたくさんの種類の本が提供されていることも感心しました。

○今年でなくなってしまう学校に少しでも協力できてよかったです。

○子供達がお世話になった東根小学校での図書

整理、来年閉校するにあたり良い思い出ができたと思っています。

○思いがけず、かわいい生徒のみなさんと一緒にごちそうになった焼きいも、美味しかったです。

○思いがけず小学校の子どもたちとお話する機会を持つことができ、貴重な時間となりました。子どもの成長と読書とは大切な関わりを持っていると思いますので、次の機会も参加させていただきたいと思います。子どもたちのために、読書をしやすい環境を整えるお手伝いが出来たらと思います。

○たくさんの本に触れることが出来て、楽しかったです。また時間が合えば協力しますので、連絡してください。

#### 2. 学校から

○なかなか作業できないでいたところをお手伝いいただきました。きれいに整備された書架へ子どもたちの関心が高まり、読書への意欲につながることができました。子どもたちの為に活動し、学校を支えて下さっている「みさぼーたー」の方々のご協力を心強く大変有り難く感じています。

#### 3. 今後に向けて

学校や子どものために支援したいと考えている方が沢山いることが分かった。しかし、実際の活動へのきっかけがないことが今までの課題になってた。広く情報提供すると共に、「みさぼーたー」の口コミによる広まりを期待したい。



# 一人一人の児童に 対応するために ～個に応じた授業に 「みさぼーたー」の活用～



千畑地区学校支援地域本部 美郷町立千屋小学校



美郷町立千屋小学校では今年度から本事業の活用を始めたが、同じようにスタートした学校よりも積極的に「みさぼーと」を活用している。特に、授業やクラブ活動の補助支援活動に多く活用されている。

その中から、家庭科の授業における学習支援活動について紹介する。

## ◇活動について

### 1. 活動の内容

6年生「家庭科」授業

ミシンを使って「エプロン」作り

①平成21年7月9日(木)

②平成21年7月13日(月)

①平成21年8月25日(火)

②平成21年8月27日(木)

※34名の児童を17名ずつ2班に分けての授業、各2回、延べ4回

### 2. 活動の様子

6人程度のグループに「みさぼーたー」を一人ずつ配置し、操作に戸惑っている子どもたちへの支援を行った。はじめはミシンを使うことに緊張していた子どもたちであったが、次第に質問ができるようになった。「そんなに緊張しなくても、軽くおさえるだけでいいんだよ」等の優しいアドバイスから、コツをつかんで手際よく作業が進められた。

また、友達同士仲良く話したり、物の貸し借りもしながら、少ないミシンを上手に順番に使って、最終的に全員が作品を完成することができた。

## ◇この活動を行って

### 1. 「みさぼーたー」の感想

○作業中はあまり会話できなかった児童が、完成した時に笑顔を見せてくれたことが嬉しかったです。

○男子だけのテーブルだったせいか、なかなか作業が進まず大変でした。しかし、糸の処理の仕方や次に縫う場所など、いろいろと質問してもらい嬉しかったです。あっという間に

授業時間が終わってしまいました。完成した男の子が嬉しそうに試着しているのを見て、こちらの方が嬉しくなりました。

○今は、学校に入る機会がほとんどなく、とても楽しかったです。また、素直な子どもたちばかりでこちらの方が楽しかったです。

○出来ることならいつでも手伝いますので、また声をかけてください。それに、ミシンもいろいろと機能が変わっていて、こちらの方が勉強になりました。

○みんな「先生」と呼んでくれて、熱心に聞いてくれて、本当に楽しかったです。次回を楽しみにしています。

○和裁、洋裁好きな私にとって、とっても楽しいボランティアでした。また、子どもたちと触れ合って、楽しい時間でした。

### 2. 学校から

○子どもたちが日常ミシンを使うことがほとんどないため、操作に戸惑ったり、ミシンの調子を悪くしてしまったりして大変難儀している。グループにお一人ずつサポートしていただいたおかげで、必要な時に、必要な支援を即座にさせていただくことができ、子どもたちは楽しみながら最後まで意欲的に学習することができた。本当に感謝しております。ありがとうございました。

○ミシンの不調や子どもたちの分からない点に素早く対応していただいたこと、またトータルで4回の学習に複数回協力していただいた方たちばかりだったことを大変嬉しく思い感謝しております。

### 3. 今後に向けて

普段の授業ではない地域の方々がいたことで、子どもたちには適度な緊張感が生じ、学習意欲や集中力も高まった。また「みさぼーたー」とっては、学校や子どもたちについて知ることと支援活動の喜びを感じることができた。

お互いにとってプラスになることを地域全体に広め、より多くの活動が展開されることを期待したい。



◇子どもから「みさぽーたー」への手紙

Nental  
6年松組

「たのしい  
みさぽーたーのみなさん」

みさぽーたーのみなさん、こんにちは。  
6年生でやった家庭科のエフロン作りの手伝  
いをしてくださりありがとうございました。  
おかげでとても上手にエフロンも作ること外  
できました。上手に作ることもできたのは  
みさぽーたーのみなさんのおかげです。  
またこんど何かをつくらせたら、お手伝いを  
お願いしたいです。このたびは本当に  
ありがとうございました。そしてまた、よろしく  
お願いします。  
私たちが大きくなって大人になったら、私も、  
みさぽーたーのみなさんのように、みんなに、  
いろんなことを教えていきたいなと思い  
ました。

# 子どもたちを迎える 季節感あふれる玄関

～ボランティアのやる気とセンスが光る  
デコボラ（デコレーションボランティア）の取組



湯沢西小学校支援地域本部 湯沢市立湯沢西小学校



湯沢西小学校は、湯沢市の中心にある児童数588名、学校職員45名という湯沢市の中では1番の大規模校である。そして、2年前に新築されたばかりの広々とした新しく立派な校舎である。

湯沢西小学校では、今年度から学校支援地域本部を立ち上げたが、すでに昨年度から、県主催の研修会に参加したり、立ち上げ準備のための会議を開いたりしながら、4月からのスムーズな事業実施に備えてきた。

大きな学校行事の際の駐車場整理や、入学したばかりの1年生への給食補助や下校時の見守り、学校花壇の花植えの手伝いや除草作業など、非常に多くの部分で多くのボランティアの皆さんが学校を支援してきている。

それらの活動の中でも、特徴的なものが学校の顔とも言えるべき玄関を飾るデコレーションボランティア（通称「デコボラ」）である。

## ◇活動の紹介

デコレーションボランティア（デコボラ）は、最初はPTAの有志が、入学式に向けて先生方が飾ってくれた玄関の見事な桜のデコレーションを見て、自分たちも新しい学校の広い玄関のガラスにデコレーションしながら、お母さんたちの交流をしようとしたのがきっかけだった。そのうちに、参加者の輪をもっと広めようということになり、学校支援地域本部と一体になってこの活動が始まった。

現在では、活動のPRやボランティア募集を学校支援地域本部の地域コーディネーターが担当し、15名程のボランティアが楽しく活動している。

玄関のディスプレイは、その時その時の季節感を考えながら、大体2ヶ月に1回ほどで張り替える。ボランティアは、毎月1回決まった日に集まり、デコレーションの内容やデザインを決めたり、貼り付ける素材の製作や貼り付けの作業を行っている。時間内につくれなかった素材は、自宅に持ち帰り次の活動までに仕上げてきたり、貼り付け方にも工夫を凝らしたりと、非常に熱心に取り組んでいる。

また、地域コーディネーターは、常に携帯メールを活用してボランティアと連絡を取り合い、つながりを切らさないようにしている。

## ◇この活動を行って

デコボラは、今では地域本部にとってなくてはならない大切な活動であり、同時に、毎日その玄関を通る子どもたちにとっても、楽しみの一つとなっている。

成果として、1つ目は、この活動を通して、ボランティアが定期的に活動する機会ができたことが挙げられる。特別な行事に併せて学校からの要請を待つだけではなく、ボランティア自身が自分たちで考え、しかも自分たちの都合に合わせて無理なく続けられる活動が定着したことは、非常に意義がある。

2つ目の成果は、ボランティアの中でも、特にPTA会員である保護者たちの学校支援への参加である。保護者にとっては、学校との関わりが生まれるだけでなく、子どもたちに喜ばれ、反応がストレートに伝わってくるデコボラは、非常にやりがいのあるボランティアの一つとなっているのではないだろうか。

このような取組をしていく上では、地域コーディネーターの役割の重要性は言うまでもないが、学校側の事業理解と協力も非常に大切である。湯沢西小学校では、学校側の窓口である教頭先生とコーディネーターとの連携・協力が上手くいっているだけでなく、校長先生をはじめとする教職員全体が、学校の中にボランティアを受け入れる雰囲気や上手くできあがっている。また、学校は、学校内に活動の際にボランティアが集える場所（礼法室）を提供している。礼法室は、デコボラの活動場所としてだけでなく、地域本部事業に関わる多くのボランティアが活動し終わったらお茶をしながら楽しく話をして帰る、といったように活用されている。このようにボランティアが気軽に集まれる場所が学校内に用意されているということが、この事業にとって、非常に重要なポイントとなっている。



# 全校で取り組む 学校農園活動への支援

～地域コーディネーターの  
複数配置による効率的な取組～



羽後明成小学校支援地域本部 羽後町立羽後明成小学校



羽後町立羽後明成小学校は、新成小学校と明治小学校を統合し、平成20年4月に申請羽後明成小学校として開校した。

今年度から活動を始めた羽後明成小学校支援地域本部では、スポーツ支援、環境整備、学習支援の3部門に、それぞれ地域コーディネーターを配置し、地域との連携を深めながら事業を展開している。

その中でも、環境整備部門では、除草作業や樹木の剪定作業などの活動はもちろんであるが、主に全校をあげて年間を通して取り組んでいる農園活動の支援を中心に活動している。

## ◇活動の紹介

### ○5月19日 農園準備

地域コーディネーターの手配で、農園の準備が行われ、畝たて、マルチ張りの作業を4～6年生のアグリクラブ員と一緒にいった。

### ○5月25日 花植えと種まき

ボランティア養成講座の指導者も務めている方の指導のもと、児童一人一人がプランターにベゴニアを植えた。また、同じ日に、ボランティアが畝作りをしてくれた畑に、2年生が、枝豆、キュウリを植えた。

### ○5月31日 ボランティア養成講座Ⅰ

苗作り、苗代作り、水の管理などについて、地域の協力者や保護者に養成講座を行った。(ボランティア参加者10名)

### ○6月1日 ボランティア養成講座Ⅱ

ひまわり畑作りと種植えについて、養成講座を行った。(ボランティア参加者7名)

### ○6月1日 田植え作業、種植え

養成講座を受けたボランティアを中心に、5年生24名に田植え作業を指導した。田植え後の水の管理や除草作業の予定を説明すると、児童は稲作りの大変さを感じることができた。また、同じ日に全校でひまわりの種植えを行った。

### ○10月2日 稲刈り作業

田植えをしてから、水の管理、除草作業等を地域コーディネーターが中心となってボランティアの方々と一緒に行ってくれた。この日の稲刈りも、

コーディネーターやボランティアの助けを借りながら、5年生は生き生きと活動していた。鎌で刈り取った稲は、はさがけ(天日干し)にし、自然乾燥した後、精米した。同じ日に、ボランティアと一緒にひまわりから油を採るために、種の部分を収穫した。

### ○10月15日 学校農園の収穫

1～3年生はサツマイモを、4～6年生はサトイモを収穫した。苗植え以降、ボランティアの手を借りながら児童たちが水やりや観察を続け、大切に育てた作物の収穫であった。当日も、畝を掘り起こす手伝いをコーディネーターやボランティアの方々にしていただいた。

### ○11月6日 第27回県学校農園展表彰式

これまで行ってきた学校農園での活動を農園新聞にまとめ、第27回秋田県学校農園展において優秀賞を受賞した。また、家の光協会賞も併せて受賞し、子どもたちにとって大きな自信となった。

### ○11月10日 収穫感謝祭

農園活動に協力してくれた地域コーディネーターや田主さん、そしてボランティアの皆さんを招待して、協力してくださった皆さんの皆さんに感謝の心と収穫の喜びを届ける「収穫感謝祭」を開催した。各学年毎に育てた作物のことを発表したり、収穫した作物で作った芋の子汁やふかし芋、赤飯を参加者全員で味わった。

## ◇活動を行って

環境整備担当のコーディネーターの活動は、ボランティアの手配や活動へ指導・支援にとどまらない。地主さんとのつなぎ役や、苗の調達といった事前準備、除草などの日々の管理など、農園活動にかかわるすべての部分できめ細かな活動を行っている。また、観察時期や水やりのタイミングなど、学習活動へのアドバイスも行ってくれるので、農園活動自体が非常に充実してきた。

また、ボランティア養成講座を開催したり、これまで以上にボランティアの方々に協力していただくことで、学校に対する地域の支援の輪がより広がってきたように感じる。

●活動のようす●

○5月25日 花植えと種まきのようす



○6月1日 ひまわりの種まき



○6月1日  
田植えのようす

○10月2日  
稲刈り作業



○10月15日  
学校農園の収穫



○11月6日 第27回秋田県学校農園展表彰式

# 地域の人材を活用した 年中行事体験学習

～ふるさとを愛する子どもを育てる  
「地域の先生」の取組～



東成瀬村学校支援地域本部 東成瀬村立東成瀬小学校



東成瀬村学校支援地域本部は、東成瀬小学校・中学校を対象として、事業を行っている。その中でも、東成瀬小学校で行っている「年中行事体験」への支援は、学校と地域をつなぐ大切な事業となっている。

## ◇活動の紹介

### 1 ねらい

東成瀬小学校では、以前から、地域の人材を「地域の先生」として各教科学習に招き、地域の伝承文化、歴史、産業、季節の行事・偉人・農作業等について、教室だけでは学べない貴重な事柄を学習してきた。

しかし、人材が多岐にわたっていることや、それぞれ一人一人の活用できる分野とその中身が学校ではなかなか把握できないことなどから、学習のねらいにつながる適切な人材の選定が難しい状態にあった。また、学校職員の異動により、せっかく確立できたつながりも途切れてしまい、新年度からまた新たな人材の発掘・開発のための多くの時間が必要となっていた。

そこで、学校支援地域本部事業を活用し、窓口をコーディネーターに集約することで、上記のような課題の解決を図った。

### 2 活動の様子

年中行事の体験活動は、各学年で年間を通して行われている。それぞれ生活科や社会科、総合的な学習の時間などとの関連を図りながら小学校6年間で体験していく。

#### ○年中行事に関連した活動

- 6月 端午の節句（1年生）、よでこ（5年生）
- 6月 歯がため（4年生）
- 9月 豆名月（1年生）
- 10月 刈り上げの節句（4年生）  
栗名月（2年生）
- 12月 豆腐あぶり（4年生）
- 12月 大黒様（2年生）
- 2月 雪中田植え（3, 4年生）

これまで、学級担任や教頭先生が行っていた講師の選定・依頼や日程調整などの交渉を、地域をよく知る地域コーディネーターが行っている。

地域コーディネーターは、学校側のねらいをし

っかりと理解し、各活動に適した地域の人材を選定し、文字通り学校と地域を『つなぐ』大きな役割を果たしている。

## ◇この活動を行って

### 1 成果

情報の窓口をコーディネーターに集約したことにより、学級担任は学習に必要な人材の選定・交渉などに時間を割くことなく整えることができ、効率的な取り組みが可能となっている。その分、学習計画の立案・充実に向けた時間の確保が可能となり、児童と向かい合う時間も生み出せてきている。

また、これまでは、「地域の先生」は、特定の教科や行事への活用だったものが、多くの情報の入手により活用の幅が広がり、例えば、国語の導入場面での活用や自然観察を行ったりするなど、様々な教科で生かされるという効果を生み出している。

### 2 今後の課題

地域の歴史や年中行事を知る人が高齢化してきており、後継者となる人材の発掘が大きな課題となっている。こういったことは、まさに地域を知る地域コーディネーターでなければできないことであり、今後、この体験活動が継続的に行われていくための大きなポイントとなる。

また、学校側から見ると、学級担任がコーディネーターや地域の先生に任せっきりになる可能性も少なからず懸念される。学級担任自身が授業のねらいをはっきりともち、地域コーディネーターや地域の先生としっかりとコミュニケーションを図りながら進めていくことが重要となってくる。

地域の歴史や伝統については、人々の生活の変化や地域人材の高齢化とともに忘れ去られようとしている。こうした中で、地域支援コーディネーターが、地域の人材を発掘し、学校とつながりをつくり上げ、継続する力となってくれることはありがたいことである。これからも、人材の有効活用を図りながら、子どもたちの地域に寄せる愛着を育て、学習活動の中のどの部分で活用することができるのか検討を重ねながら実践を積み重ねていきたい。

●活動のようす●



コーディネーターと相談中



ふるさと館での校外学習



年中行事を体験（よでこ）

回覧	校長	教頭	教務主任	依頼者	コーディネーター

プログラム内容整理シート

月日 平成 年 月 日

依頼者氏名	年 担任	
プログラム名	年 の学習	
プログラムの内容	希望内容	
	希望日時	
	希望人数 何人/何回	
	場 所	
	連絡・調整	
	実施日 時 間	
	団体・氏名	連絡先
実施後の感想 または課題等		

○「プログラム内容整理シート」は、支援に関わったボランティアに関する情報をまとめておくためのものです。地域の人材の情報を整理しストックしておきます。



年中行事を体験（歯がため）



自然観察



成瀬ダムの見学



黄花コスモスの種まき活動